

様

住所
連絡先
氏名

子どものマスク着用自由化のための要望

【要望内容】

1. 子どものマスク実質強制をなくしてください。

- >本人及び保護者の意思を尊重し**自由選択**とすること。
- >現場への指導徹底をお願いします。
- >守られない場合、責任の所在明確に。
- >徹底されていない場合の相談窓口設置など。

2. 保護者、児童生徒にマスク着用の健康被害や、効果の科学的根拠について調査し周知してください。

3. 着用未着用に関わらず差別偏見がないよう指導徹底してください。

※※

代用として、ワクチン接種義務化や圧力、過剰な消毒、社会的距離の確保など別の健康被害が発生しないよう指導徹底をお願いします。

【ノーマスク脱マスクのために行動する会 グループ会則より抜粋】

新型コロナウイルスによる新生活様式が始まり、1年以上経過しました。
死亡率がインフルエンザ以下、重症者も死亡者も、高齢者ばかりのウィルス。
存在証明さえ科学的に証明されていないウィルスに翻弄されています。
特に子ども達には、学校現場でマスク着用徹底されている生活を強いられている状況です。
子どもにマスクは百害あって一利なし、**子どもたちへのマスクの強要は虐待です。**

文科省も科学的根拠がないという回答をした、マスク着用。
文科省の出している

- 衛生管理マニュアル
- 学校運営のためのガイドライン

に、マスク着用、ソーシャルディスタンス、三密避ける

など新生活様式について記載があります。

(重複している部分は、衛生管理マニュアルに集約しているだけで、ガイドラインから削除したわけではない)

そもそも、文科省は通達で、新生活様式を法律的義務でもないし、強制力はない、ということを明確に言っています。

各自治体、教育委員会、学校がそれぞれの自由裁量で、マスク着用の運用を現場で指導している、というのが実情です。

責任所在は、あくまでも自治体にあります。

マスク着用を強要する場合は、憲法違反、法律違反人権侵害になります。

刑法223条 強要罪

憲法 18条 奴隷的拘束からの自由

科学的根拠もなく、法律的強制力もないマスク着用をする意味があるのかを考えていきましょう。

また、マスクをすることで、子どもたち自身が多くの健康被害にあい、その害は深刻です。

頭痛、吐き気、記憶障害、二酸化炭素中毒、脳障害の原因、記憶の海馬の神経細胞の壊死、情緒的発達の阻害、無表情、感情表現の喪失、顔の認識不可、など様々な悪影響が出ています。

体育時や走るとき、マラソン時、有酸素運動で激しく運動する際にもマスクを着用させられている場合もあります。

命にかかわる重篤な問題です。

子どもたちの真の意味での命や健康を守るために、マスクをはずすことは命題となります。

マスクをとって、自然と調和して本来の身体に備わっている免疫力で風邪や、病気に立ち向かえるような、マスクを外す生活を目指していきましょう。

【ユニセフ／子どもの権利条約より】

子どもたちには、どんな権利があるの？

この条約は大きくわけて次の4つの子どもの権利を守るように定めています。そして、子どもにとっていちばんいいことを実現しようとしています。



生きる権利

すべての子どもの命が守られること



育つ権利

もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるように、医療や教育、生活への支援を受け、友達と遊んだりすること



守られる権利

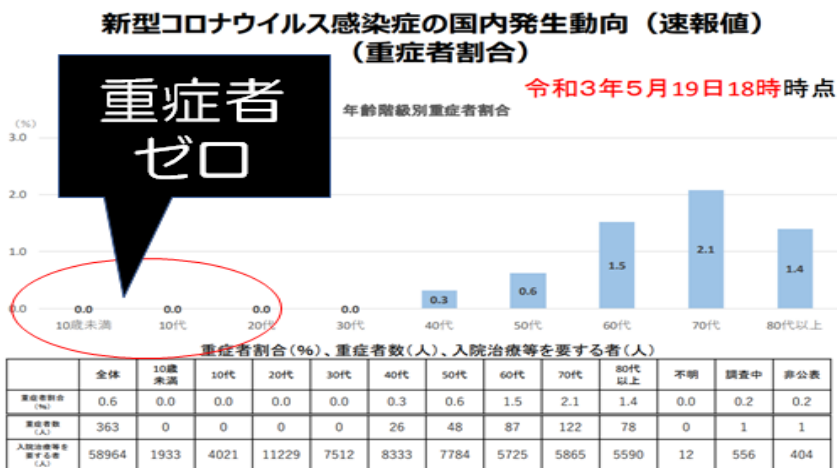
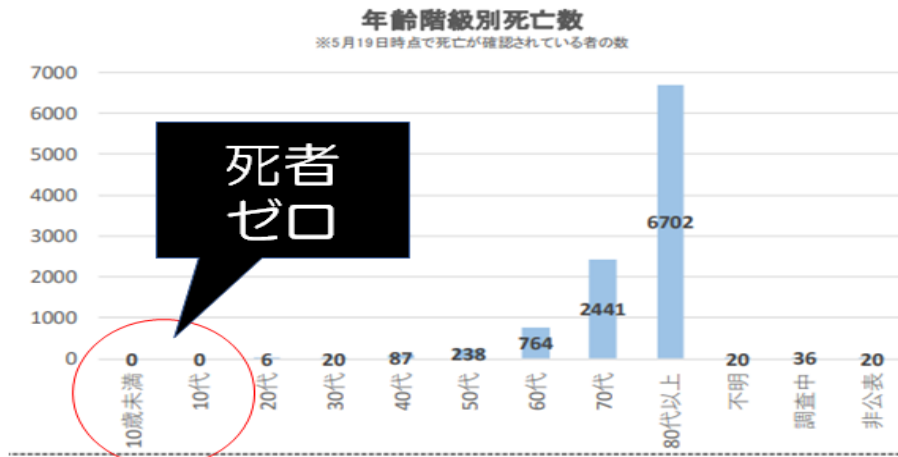
暴力や搾取、有害な労働などから守られること



参加する権利

自由に意見を表したり、団体を作ったりできること。

【子どもには特に過剰な対策は必要ない】



重症者割合(%)、重症者数(人)、入院治療等を要する者(人)

	全体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明	調査中	非公表
重症者割合 (%)	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.6	1.5	2.1	1.4	0.0	0.2	0.2
重症者数 (人)	363	0	0	0	0	26	48	87	122	78	0	1	1
入院治療等を要する者数 (人)	58964	1933	4021	11229	7512	8333	7784	5725	5865	5590	12	556	404

注1：現在厚労省HPで毎日更新している重症者数は、各自治体がウェブサイトで公表している数値を積み上げたものである。これに対し、本「発生動向」における重症者数は、この数値を基に、厚生労働省が都道府県に詳細を確認できた数値を集計したものであるため、両者の合計数は一致しない。

【医師たちの警鐘】

本間真二郎 医師

「コロナによる被害は、ウイルスによる病気や死亡よりも、特に子ども達の精神に対する害が最も大きい。子どものマスクの着用により、身体、行動、学習、情緒のすべてにわたって非常に多彩な障害(副作用)を認めました。」

帯津良一 医師

「マスクは新型コロナに対抗するための免疫力を低下させます。免疫力の源泉が呼吸にあるからです。マスクをすればするほど免疫力を低下させてを新型コロナに感染しやすくしている。」

Dr. Dan Erickson

「マスク・過剰殺菌・引き篭りは免疫力を下げ、病気を増やす」

伊達伯欣医師

「症状がない限り、マスクをしても意味がない。

マスクで息苦しくなると肺炎のリスクが高まります」

Dr.ロジャー・ホディキンソン氏

(医学協会病理検査部門元会長・ウイルス学も含む病理学が専門)

「コロナ茶番劇は、完全なる事実無根の大衆的ヒステリーであり、メディアと政治家による扇動。極悪非道。過去に類を見ない正直な一般市民への最大の詐欺行為。コロナは、エボラでもなくサーズでもなく特別な対策は何もいない。マスクも社会的距離もまったく意味が無い。PCR陽性は感染を意味しない。」

竹林直紀 医師

「ウイルスや細菌などが付着したままの同一マスクの常時着用は、感染のリスクを高めてしまうという極めて当たり前の考え方が、感染症専門家が何故できないのか不思議。マスク着用は、感染を逆に広げ重症化の要因になりうる。感染状況が一旦収束してから、第2波防止のためマスク着用を義務化した多くの国で感染者数が逆に増えています。」

「酸素欠乏は永久的な神経障害を引き起こし、あらゆる臓器にダメージを与えます。子供や思春期の子供にとってマスクは絶対に禁物。酸素欠乏は脳の発達を阻害し、その結果として生じたダメージは元に戻すことができません。」

マスク着用警告：酸素欠乏による永久的な神経障害



マーガレット・グリーズブリッソン博士(MD、PhD): 薬理学博士、コンサルタント神経科医、神経生理学者。神経毒性学、環境医学、神経再生と神経可塑性に特別な関心を持っている([ウェブサイト](#))。

子供や思春期の子供にとって、マスクは絶対に禁物です。子供や思春期の子供たちは、非常に活発で適応性の高い免疫システムを持っており、地球の微生物との絶え間ない相互作用を必要としています。彼らの脳もまた、学ぶべきことがたくさんあるため、信じられないほど活発に活動しています。子供の脳、つまり若者の脳は酸素を渴望しています。新陳代謝が活発な器官であればあるほど、より多くの酸素を必要とします。子供や青年では、すべての臓器が代謝的に活動的です。

子供や思春期の脳から酸素を奪ったり、何らかの方法で制限したりすることは、健康を害するだけでなく、絶対に犯罪です。酸素欠乏は脳の発達を阻害し、その結果として生じたダメージは元に戻すことができません。

子供が学習するためには脳が必要であり、脳が機能するためには酸素が必要です。そのための臨床研究は必要ありません。これは単純で議論の余地のない生理学です。意識的に意図的に酸素欠乏を誘発することは、絶対的に意図的な健康被害であり、絶対的な医学的禁忌です。

【各国の対応】

ドイツのWeimar地方裁判所は、学校での子供の
マスク着用、社会的距離、および大量コロナ検査を禁止



2021年4月8日ドイツのWeimar地方裁判所（家庭裁判所）は、現地の2つの学校での子供の
マスク着用、社会的距離、および大量コロナ検査を即時に禁止

するという判決を下した

まず、判決の要旨は以下の通りである。

- ・マスクと社会的距離は、子供の身体的、精神的、教育的、および心理社会的発育に有害である
- ・PCR検査は、コロナ感染の判定に不適切である
- ・無症状者（健康な人）に対する大量検査は、メリットよりデメリットの方が大きい

テキサス州知事、公立学校などでのマスク義務付けを禁止

2021年5月19日 18時15分
[CNN.co.jp](https://www.cnn.com)



テキサス州のアボット知事が公立学校や州政府機関などでのマスク義務付けを禁止/Lynda M. Gonzalez/Pool/Getty Images (CNN) 米南部テキサス州のアボット知事は18日、州内の郡当局、公立学校区、保健機関や政府職員らに対し、マスク着用の義務付けを禁止する行政命令を出した。アボット氏は「テキサス住民にとって最良の保健行動を決めるのは、政府でなく住民自身だ」と強調。「住民がマスクを着けるかどうかを選ぶ自由を守りながら、引き続き新型コロナウイルス感染を抑えることは可能だ」と述べた。命令によると、公立学校は来月5日以降、敷地内で生徒や教職員、保護者らにマスク着用を求めてはならない。また今月21日以降、マスク着用を義務付けようとした地方行政機関や職員には、最大1000ドル（約10万8000円）の罰金が科せられる。

スウェーデンの自治体で学校でのマスク着用を「禁止」



スウェーデンでは、自治体によっては学校でのマスク着用を「禁止」している。「強制」はもちろん「自由選択」でもない。「禁止」なのだ。理由はマスクの予防効果の根拠が弱すぎ、有害性が大きすぎるため。

暑くなり被害が拡大する前に
マスクを外せる環境にしよう

全国から署名が集まっています



2021年5月29日 スタート!

2021年 月 日 現在

署名数 _____ 名

賛同者からのコメント

- 子どもたちは大人が外してもいいよと言うだけでなく、外しなさいと言わないと外せません。
- 激しく同感したので署名しました！全国のお母さんに響いてほしい！
- 未来ある子どもたちの可能性を守りたいです。一人でも多くの人に、この現状が尋常ではないことに気づいてほしい。
- 私達大人が、操作された情報からではなく、何が真実か自分で調べ、同調圧力に流されては 子供たちは守られません。鼻と口を塞がれて苦しくないわけがありません。外はキラキラした自然や生物で溢れています。子供たちを解放してあげましょう！
- マスク着用で持久走をした児童が亡くなる事件がありました。これからの季節は特に熱中症の危険もあります。親や先生から指導されたら、大部分の子供たちは逆らえません。大切な子供たちを守りましょう。
- 子どもたちは大人の「言う」ことではなく、「する」ようにすると思います。その際に、大人がマスクをしないのは、子どもたちがその自由意志を使いやすい状況を創り出すことだと思っています。大人がまずは姿勢を見せたいと省みて思います！
- もう良い加減に子供達を解放してあげて下さい。今までも子供達が犠牲になって来ました。残念な事に亡くなった子も居ますよね？これ以上の見て見ぬ振りには許されません。
- 子どもでいられる時間は少ししかありません。私たち大人の間違ったやり方で、子どもが犠牲になるのは本当に悲しいです。

【発起人】 ノーマスク脱マスクのために行動する会

当会は、実際にマスクを外すための活動をしている人たちの情報交換の場にしていけるようにという目的で結成されました。自然と調和し本来の身体に備わっている免疫力で風邪や病気に立ち向かえるような、マスクを外す生活を目指します。

森 美歌
本間 寛太
田村 知加

✉ nomask.datsumask@gmail.com

